

(様式第1号)


平成30年10月30日

認定介護福祉士認証・認定機構
理事長 大島 伸一 様

領 域 名 : 心理・社会的支援の領域
科 目 名 : 心理的支援の知識技術
単 位 数 : 2単位
認証申請する研修の名称 : 認定介護福祉士養成研修

団体名 : 一般社団法人静岡県介護福祉士会
団体事務所の所在地 : 〒420-0856
静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
電話 : 054-253-0818
FAX : 054-253-0829
E-mail : shizukai@cy.tnc.ne.jp

下記書類を添えて上記科目に対する研修の認証を申請します。

団体代表者 : 一般社団法人静岡県介護福祉士会 
申請責任者 : 会長 及川 ゆりこ

記

○認定介護福祉士研修認証申請書 (別紙1~3)

<機構使用欄>

受付	
確認	
委員付託	
追加連絡	
評価報告	
理事会承認	
認証番号	

(別紙 1) 認定介護福祉士研修認証

※申請受付番号 _____

(※は記入しないでください)

認定介護福祉士研修認証申請書

申請年月日	平成 30 年 10 月 30 日
申請団体名	一般社団法人 静岡県介護福祉士会
申請団体代表者氏名	会長 及川 ゆりこ
申請責任者職名	認定介護福祉士養成研修担当 理事
申請責任者氏名	水野 公智
団体住所	〒420-0856 静岡県静岡市葵区駿府町 1-70 静岡県総合社会福祉会館 4 階
同 Tel・Fax	Tel : (054)-(253)-(0818)
メールアドレス	Fax : (054)-(253)-(0829) E-mail: shizukai@cy.tnc.ne.jp
申請対象の領域	領域名 : 心理・社会的支援の領域
科目名 (単位数)	科目名 : 心理的支援の知識技術 (2 単位)
申請する研修名	認定介護福祉士養成研修
研修認証実績	年 認証番号 ()
	年 認証番号 ()
	年 認証番号 ()
その他特記事項	

認証申請科目に対する研修の内容

申請対象の領域	心理・社会的支援の領域	
科目名	心理的支援の知識・技術	
(1) 提供する研修について		
研修名	認定介護福祉士養成研修	
教育目的	<ul style="list-style-type: none"> ・援助対象者の心理を理解・支援するうえで必要な心理学に関する知識を習得し、心理的理解と支援の方法を習得させる ・心理学の基本的基礎を自己理解、他者理解に活用できるようにするとともに、認知行動療法等の心理的支援の展開方法を習得させる。 ・社会心理学の基礎を学び、集団における個人の行動特性を理解し業務に反映する手法を修得させる ・専門職業務におけるストレスケアマネジメントの基礎を学び、自己およびチームのストレスケアの実践方法を修得させる 	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・人間の心理と行動に関する理論を理解し、説明できる ・自己と他者の心理を理解するための基本姿勢と生じやすいバイアスを理解する ・学習と欲求・動機づけの理論を理解し、支援に応用できる ・心理的理解や支援の基本的技法を知り、実践に取り入れる ・集団ケア・個別ケアにおける個々の心理を理解し、支援に応用できる ・自己および関与するチーム員のストレスマネジメントが行えるようになる 	
研修内容（研修プログラム）	含むべき内容	研修プログラム
	<p>○心理学の基本的理解を学ぶにあたって</p> <p>① 自己分析の基本の体験</p> <p>② ②心理学的アプローチが必要な困難を感じている自己体験をまとめる</p> <p>→自己学習をもとに、基本的学習ののち、演習教材として活用する</p> <p>1. 心理学の基本的理解</p> <p>①こころを科学的に研究することの理解</p> <p>②心理的現象の特性・主観性・客観性の理解</p>	<p>1. 心理学の基本と心理的理解</p> <p>○事前課題①（4時間）</p> <p>受講者が日常の高齢者介護の現場での「困難なこと」を振り返りA4 1枚程度にまとめて提出する。</p> <p><レポート作成にあたって></p> <ul style="list-style-type: none"> ・困難に感じる対象は介護対象者、職場関係者でもよい ・困難なことの内容が明確に理解できるようにまとめる ・レポート中より、キーワードを4つ挙げ別紙にて提出すること。 <p>○講義・演習（3時間）</p> <p>○心とは何かを知る 「アンとサリーの課題」を体験しグループディスカッションする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心が理解できる年齢、その表現方法等について学ぶ（言葉と行動など）

2. 自己と他者の心理的理解

① 自己概念の理解(社会的アイデンティティ、社会的比較など)

② 社会的認知(他者理解のバイアス:ステレオタイプ、帰属錯誤など)

③ 社会的行動、集団における行動

3. 学習と動機づけの理解

① 学習の基本原則と応用(行動理論の理解と自立支援への応用)

② 欲求と適応の理解(マズローの欲求階層説、防衛機制など)

○「錯誤を体験できる素材を提供し体験的理解ののち、グループでディスカッションする」

○記憶の種類と内容を学ぶ。(事例と関係づけて理解する)

○高齢者ケアの分野で利用されている神経心理検査について学ぶ

(演習) 神経心理検査を体験し、自己採点しその意味を学び、医療分野から発信されてくる神経心理検査について理解を深める

○講義・演習 (3時間)

(演習) 自分の心理的特性を把握し、日常の認知や行動について自己分析し、社会とのかかわりへと発展させる。

→エゴグラム東大式を利用予定(心理学者エリックバーン博士(アメリカ)が交流分析という心理学的理論に基づいて作られた性格診断テスト)

・アイデンティティについて学習する

・エリクソンの提唱した生活周期を学び、個人的アイデンティティと社会的アイデンティティについて理解を深める

○身近な事例から「社会的比較」「栄光欲」などについて学び、自己と社会との関係について考える

・自己の認知、対人認知、ステレオタイプ、帰属過程等の基本的理解を学ぶ

・社会・集団の心理を理解するための基本的概念を学び実務事例との関係の理解する

○講義 (3時間)

・学習と動機づけ、適応、防衛機制の基本原則を理解する。

・動機の種類を学ぶ

・学習のしくみを学び条件づけの基本原則を学ぶ

・応用行動分析、行動療法を知り、実践事例との関係を学ぶ

・マズロー欲求の階層説の理解

③ 動機づけの理解と応用(達成動機、内発的動機など)

4. 心理的支援技法の基礎と実践

① ストレスと対処方略の理解

② 心理学的面接技法の理解と応用
(カウンセリング等におけるかわりや傾聴の技法の理解と練習など)

③ 認知行動療法の理解

・事例から動機と欲求を考える

防衛機制の種類と分類を学び、事例に即した学習を行う

達成動機、内発的動機づけ、外発的動機づけを理解し、人材育成との関係などの応用を学ぶ

○講義・演習(3時間)

・ストレスに関する理解を深め、ストレスコーピングについて学ぶ。バーンアウト等の介護分野での事象も踏まえて応用可能な学習をする

セリエのストレス学説と応用

・認知症ケア等への応用を学ぶ

(演習)

ストレスマネジメントについての講義を参考に、自己事例についてセルフケア、ラインケアの実際を想定し、自己とチームストレスケアについてグループディスカッションを行う

○講義・演習(3時間)

・パーソンセンタードカウンセリングによる面接技法を学ぶ

・面接の基本的理解

・認知症の方へのコミュニケーション方法としてバリデーション、ユマニチュード等の技法に関する概要及びその根拠、留意点を理解する。

(演習)

カウンセリング等で使われる技法を理解し、傾聴の技法を学ぶ。その後、グループ形式での演習を行う。

○事後課題(4時間)

・自己と事前レポート援助対象者の心理を分析し、研修で習得した方法で解決を目指す取り組みの計画を立案する。実際に取り組み、その結果を評価してレポートとして提出する。(A4 2枚までにまとめる。)

研修方法	<p>■集合研修 ■課題学習</p> <p>○集合研修講義と演習を組み合わせで行う。 ○課題学習は事前・事後課題として、レポート課題を課す。評価は担当講師が行う</p>
研修時間	23時間（集合研修15時間、課題学習8時間）
修了要件	<p>○全課程の出席を要する。公共交通機関の影響、冠婚葬祭、担当する利用者の急変といったやむを得ない事情による遅刻又は早退については30分を上限として認める。（レポート課題あり）</p> <p>○修了評価は、①講義で学んだ基礎理論に関する筆記試験（40%）、②事後課題（40%）、③講義・演習への参加貢献度及び理解度等（20%）として、100点満点中80点以上をA評価、70～79点をB評価、60～69点をC評価、それ未満の場合はD評価とする。①がD評価の場合、再試験（本試験同様とする）再試験は複数回の受験を可能とする。②がD評価の場合は再提出とし、C評価以上とならなければ修了を認めない。</p> <p>○集合研修を欠席した場合、課題が提出されていても修了を認めない。</p>
講師要件（講師の選定基準）	<ul style="list-style-type: none"> ・当該科目における十分な知識・専門性を有し、講師等の教育経験がある者 ・修士課程を修了している者が望ましい ・地域に対する支援プログラムを企画、実施した経験のある有資格者（介護福祉士、主任ケアマネ、社会福祉士、保健師、精神保健福祉士、臨床心理士、作業療法士等）が望ましい ・補助者についても当該科目における十分な知識・専門性を有し、講師等の教育経験がある者
(2)受講者について	
受講対象（受講要件）	単位取得できるのは介護福祉士資格を有するものであること。
修了評価	<p>修了評価は以下により行う。</p> <p>①講義で学んだ基礎理論に関する筆記試験（50問：40%） ②事後課題（40%） 自己と事前レポート援助対象者の心理を分析し、研修で習得した方法で解決を目指す取り組みの計画を立案する。実際に取り組み、その結果を評価してレポートとして提出する。（A4 2枚までにまとめる。） ③講義・演習への参加貢献度及び理解度等（20%）</p> <p>以上の修了課題について①を4割②を3割③を3割として、100点満点中80点以上をA評価、70～79点をB評価、60～69点をC評価、それ未満の場合はD評価とする。①がD評価の場合、再試験（本試験同様とする）再試験は複数回の受験を可能とする。②がD評価の場合は再提出とし、C評価以上とならなければ修了を認めない。</p>
(3)研修の環境条件	
定員（講師の配置基準）	40名（講師1名）演習時には10名の受講生に対しファシリテーター（認定介護福祉士又は資格取得後10年以上の介護福祉士とする）を1名配置する。
開催場所（都道府県）	静岡県総合社会福祉会館シズウェル（静岡県）

コマシラバス

1日目

本科目に関しては1時間を45分換算とする。

区分	プログラム	時 間	内 容
1 コマ目	心理学の基本的理解①	9:30～11:00	90 <ul style="list-style-type: none"> ・「心」とは何かを知る ・「錯誤」などの体験をし、心の体験的学習を行う ・「心」が理解できる年齢、表現方法についてまなぶ ・介護福祉士としての業務における心理学的アプローチの手法活用の理解につなげる
	休憩	11:00～11:10	
	心理学の基本的理解②	11:10～11:55	45 <ul style="list-style-type: none"> ・「記憶」に関する知識を深め、実際の現場業務との関係性を理解する ・高齢者ケアの現場で使用されている神経心理検査を体験し、その意味を学ぶ ・まとめ
	昼食休憩	11:55～12:55	
2 コマ目	自己と他者の心理的理解①	12:55～14:25	90 <ul style="list-style-type: none"> ・エゴグラムを各自体験、採点評価し、自分の心理特性を把握し、社会へのかかわりへと発展させる。 ・分析をグループ内で共有し、認知と行動の傾向についてディスカッションする
	休憩	14:25～14:35	
3 コマ目	自己と他者の心理的理解②	14:35～16:05	90 <ul style="list-style-type: none"> ・エリクソンの生活周期を学び個人的アイデンティティと社会的アイデンティティについて理解を深める ・自己の認知、対人認知、ステレオタイプ、帰属過程等の基本的理解を学び実務事例との関係を理解する
	休憩	16:05～16:15	
	学習と動機付けの理解①	16:15～17:30	45 <ul style="list-style-type: none"> ・学習と動機付け、適応、防衛機制の基本原則を理解し実践事例との関係を学ぶ
	学習と動機付けの理解②	17:30～18:15	45 <ul style="list-style-type: none"> ・マズローの欲求の階層説を理解する ・実務事例から動機と欲求の関係を考える ・防衛機構の種類と分類、達成動機、内発的動機、外発的動機の理解と応用を学ぶ

2日目

区分	科目名	時間	内容
1コマ目	心理支援技法の基礎と実践 ① ストレスと対処方法の理解	9:30~11:00	90 ・ストレスの理解とストレスコーピングについて学ぶ ・セリエのストレス学説と応用を学ぶ
	休憩	11:00~11:10	
2コマ目	ストレス対処方略の実践を学ぶ	11:10~12:40	90 ＜演習＞講義を参考に、自己実務事例についてストレスケアの実践を想定し、自己とチームストレスケアについてグループディスカッションを行う
	昼食休憩	12:40~13:40	
3コマ目	認知症の人とのコミュニケーション技法	13:40~14:25	45 ・パーソンセンタードカウンセリングによる面札技法を学ぶ ・バリデーション、ユマニチュード等の技法に関する概要、その根拠、留意点を理解し認知症ケアの実践との関係を学び実務に応用できるようにする。
	休憩	14:25~14:35	
4コマ目	認知行動療法等の応用①	14:35~16:05	90 ・認知行動療法の基本とその意義を理解する ・事例に対するアプローチを学び実践への応用を考える
	休憩	16:05~16:15	
	認知行動療法等の応用②	16:15~17:00	45 ＜演習＞ ・認知行動分析シートを用いてその応用を考えグループディスカッションを行う
	筆記試験（修了試験）	17:00~18:00	60 ・説明後試験

<講義時に体験予定>

- ・エゴグラム東大式

<参考推薦書>

- ・看護学生のための心理学第2版 編集 長田久雄 医学書院

<参考図書>

- ・心理学[第5版] 鹿取廣人・杉山敏夫・鳥居修晃[編] 東京大学出版会
- ・心理学・入門 サトウタツヤ・渡邊芳之[著] 有斐閣アルマ

認証申請する研修の実施体制等 (届出事項)

(1)研修の実施予定	
実施日	① 2019年9月23日
	② 2019年10月5日
	③
開催場所 (会場)	① 静岡県総合社会福祉会館 (静岡市葵区駿府町1-70)
	② 静岡県総合社会福祉会館 (静岡市葵区駿府町1-70)
	③
(2)講師	
担当、氏名及び略歴	<p>○心理的支援の知識技術 奥山恵理子氏 ㈱浜松人間科学研究所 代表取締役 浜松医科大学地域看護学講座 非常勤講師 浜松市歯科医師会立歯科衛生士学校高齢者歯科 講師</p> <p><学歴> 1980年 名古屋保健衛生大学 衛生学部卒業 2015年 聖隷クリストファー大学大学院リハビリテーション科学研究科期博士課程修了 博士 (リハビリテーション科学)</p> <p><国家資格>精神保健福祉士、臨床検査技師、 <認定資格>主任介護支援専門員、 認知症介護指導者 認定上級専門心理士 (日本老年精神医学会) 上級認知症ケア専門士 (日本認知症ケア学会) 認定ケアマネジャー (日本ケアマネジメント学会) 認定精神保健福祉士 (日本精神保健福祉士協会) キャラバンメイト (認知症サポーター養成講師)</p> <p><職歴> 1980年4月—1984年9月 聖隷浜松病院中央研究検査部 臨床検査技師 1987年4月—1990年3月 デュボンジャパンリミテッド学術サポート 1993年9月—2003年1月 (医社) 哲明会 奥山クリニック 法人理事 精神保健福祉士 2003年2月—2009年2月 NPO法人ウェルネスサポート 法人理事 精神保健福祉士 介護支援専門員</p>

2010年3月—現在 (株) 浜松人間科学研究所代表
居宅介護支援事業所 恵所長

- 認知症・高次脳機能障害・精神疾患の方々を対象とした居宅介護支援事業所として静岡県浜松市にて開設。科学的根拠を踏まえたケアマネジメントの実践と人材育成活動をおこなっている。
- 認知症ケアにかかわる人材育成、認知症のためのケアマネジメント手法の研究開発と普及
- 神経心理検査（CKPT）の開発普及
- ストレスチェック実施およびストレスマネジメント講師をつとめている。
- 認知症介護基礎研修・実践者研修・リーダー研修講師
- 静岡県介護支援専門員更新研修専門Ⅱ 認知症 講師
- 浜松市歯科衛生士学校高齢者歯科 講師
- 浜松医科大学医学部地域看護学講座 非常勤講師

<主な著書> (共著)

近赤外分光法による前頭前野計測 コロナ社
ケースで学ぶ認知症ケアの倫理と法 南山堂
急性期病院で治療を受ける認知症高齢者のケア
日本看護協会出版会
パーソンセンタードケアでひらく認知症看護の扉
南江堂
早期認知症テキストブック
日本早期認知症学会発行
始めませんか「認知症カフェ」 浜松生体医工学研究所

担当する講義等
事後課題評価
奥山恵理子氏
経歴等は同上

(3)実施体制	
研修の企画運営の組織 (担当部局・人員)	認定介護福祉士養成研修実行委員会（非常勤:6名） 委員会事務局（担当事務局員：常勤2名・非常勤2名） 認定介護福祉士養成研修委員会において各科目の教育目的や到達目標を確認し、担当講師と科目間の連関や留意点について共有する。またできる限り研修実行委委員会の委員が研修に参加・見学し、研修内容を評価するとともに、随時研修の見直しを図る。
研修の企画運営に関する諸 規程	静岡県介護福祉士会の定款、研修委員会の諸規程に準ずる。
研修管理責任者職名	会長
研修管理責任者氏名	及川 ゆりこ
機構問合先部署	静岡県介護福祉士会事務局
機構問合先担当者氏名	平野 美智子
機構問合先電話番号/FAX	054-253-0818 / 054-253-0829
機構問合先 e-mailアドレス	shizukai@cy.tnc.ne.jp
受講問合先部署	静岡県介護福祉士会事務局
受講問合先担当者氏名	平野 美智子
受講問合先電話番号/FAX	054-253-0818 / 054-253-0829
受講問合先 e-mailアドレス	shizukai@cy.tnc.ne.jp
(4)研修履歴の管理体制	
受講者への付与単位部門	静岡県介護福祉士会事務局
受講履歴の管理方法	○紙媒体及びデータによる台帳管理 ○データ保存期間は最低10年間とし、その後は、紙媒体で保管する。 ○個人情報の取り扱いにおいては、法律を遵守する。
受講履歴の証明	各科目を修了した時点でその科目の修了証明書を発行し、全課程を修了したのものには、全課程を修了した証明書を発行する。
管理責任者氏名	及川 ゆりこ（会長）
管理担当者氏名	平野 美智子（事務局長）